

情報科学部

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

情報科学部では、情報系学会標準に基づきカリキュラムを設計し、最新動向に対応した改訂を数年ごとを実施している。3つに整理したコースのカリキュラムツリーを作成し、能力育成のため教育課程・教育内容が適切に提供され、かつ教育の順次性・体系性が確保されていることは評価できる。情報リテラシ系、数学・物理系、情報科学導入系科目において、初年次教育・高大接続がきめ細かく配慮されており高く評価できる。オフィスアワーをGBCに集約し、学生アシスタントと共に学習支援・指導、授業外学習の支援が適切に行われていることを極めて高く評価する。コース毎の成績分布を講義レベルの指標とし、学び直しや再履修クラス編成に反映しており、成績評価と単位認定の適切性、また厳格な成績評価を行う取り組みは評価できる。TOEIC®、学会表彰件数、情報処理技術者試験合格者数などの評価指標を学部独自のポートフォリオシステムで可視化し、学生に共有している。オープンセミナーを教員・学生が交流する場として活用、また授業参観、複数教員が担当する講義、積み上げ方向の関連科目は、講義方法や内容を共有しており、学部内のFD活動が適切に行なわれている。また、科研費インセンティブ予算を学部が管理し、学生の外部発表の支援強化に利用しており、研究活動の活性化や資質向上を図るため取り組みとして評価できる。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2015年度のカリキュラム改革で専門基礎分野の構成を整理し、さらに、上位学年に対してコース化を導入することで、専門的技術の最新動向に適応しやすい教育体系を構築した。学生の学習支援の面では、GBCの利用が定着している。2020年度春学期は、COVID-19の影響により学習支援が難しい状況にあるが、GBCをオンライン開催できる形に変更して、学習支援・指導を継続している。学習指標としては、アセスメントポリシーを制定し、入学時の学力測定、専門基礎力の測定、卒業時の学習成果測定という段階を踏んだ方針を定めることができた。卒業生の学会発表も盛んに行われており、科研費インセンティブ予算による研究活動の活性化が効果をあげていると考える。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

情報科学部では、2015年度カリキュラム改革における基礎分野の整理、上位学年に対するコース化導入による専門的技術の最新動向に適応しやすい教育体系の構築を行ったことは評価できる。さらに、COVID-19の影響による学習支援が困難である状況下において、GBCを積極的に活用し、オンライン開催による学習支援および指導を継続的に行っていることは高く評価できる。また、アセスメントポリシー制定により、学生の学力および学修成果を測定するための指針が定まり、より適切な学生指導の実現が期待される。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2015年度カリキュラムから、より基礎教育に重点を置いた教育課程になっている。学士力を担保するために、座学による講義に加えて演習科目を多く配置し、問題を解きながら学べる科目構成を導入した。また、実験をとおしてグループとしての問題解決方法の指導を行う数理実験において、レポートに対する教員による指導の仕組みを導入することで、技術的な文章の作成力の育成をはかっている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目
- ・カリキュラムツリー (<https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/>)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・カリキュラムマップ (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/)	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>情報処理学会等の情報系の学会が提示している情報科学分野の高等教育のためのカリキュラム標準によりコアカリキュラムを設計し、情報科学分野の最新の動向に対応した改訂を数年ごとに行っている。2015年度新入生から導入した新カリキュラムでは、情報科学分野の知識体系をコースとして明確化している。順次的・体系的な学修を明確にするために、コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学の各コースのカリキュラムツリーを作成し、ガイダンスにて学生に説明している。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリー (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・カリキュラムマップ (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) 	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>2015年度からの新カリキュラムでは、卒業所要単位に、外国語科目 10 単位、教養科目 10 単位の履修が必要としており、情報科学の専門分野以外の幅広い教養を身につけることを求めている。教養科目群については一定の見直しをしており、2019年度に、諸外国語科目、および、留学生のための日本語教育科目の開講を決定し 2020年度から新規開講できることとなった。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>教養科目としての諸外国語および留学生向けの日本語科目の開講を決定</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育には、数理実験においてレポートの作成の基礎的な指導を行っており、問題のあるレポートを中心として教員による指導体制の強化を図っている。また、情報科学リテラシにおいて、理系の専門分野の学習に備えた技術英文の読解の導入講義を行っている。数学・物理系の基礎科目においては高校の学習との連続性に配慮して講義内容を設定している。また、情報科学の導入的な基礎科目として、情報科学入門、コンピュータシステム入門 1/2、プログラミング入門を設置している。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>卒業所要単位の外国語科目 10 単位に加え、英語での学会等の発表を想定したテクニカルプレゼンテーションを開講している。さらに、2019年度に、諸外国語科目、および、留学生のための日本語教育科目の開講を決定し 2020年度から新規開講できることとなった。また、卒業論文と並行して開講している情報科学特講では英語論文を読むことを推奨し、その論文内容の発表会を開催している。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>諸外国語および留学生向けの日本語科目の開講を決定。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>3年次にインターンシップを開講し、企業での夏及び春のインターンシップ参加を推奨している。資格取得に向けては、情報処理技術者試験の受験を推奨し、集中講義による教育を実践している。多くの企業で英語力の把握に使っている TOEIC を年2回学部で実施し、英語力の定着を目指している。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時に数学のプレースメントテストを実施し、習熟度による科目選択を指導している。ただし、2020年度は、COVID-19の影響で未実施である。 ・英語は入学時の TOEIC をプレースメントテストとして活用し、習熟度別クラスを編成している。ただし、2020年度は、COVID-19の影響で、入学時の TOEIC をプレースメントテストは未実施であり、入試経路や入試成績などを総合的に判断してクラス編成を実施した。 ・学科を横断したコース制を導入し、身につける情報科学分野の知識体系をコースとして選択させている。基礎科目において学び直しの仕組みを導入するとともに、主要な科目において前提履修科目を設定している。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムツリー (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・カリキュラムマップ (https://cis.hosei.ac.jp/faculty/curriculum/) ・履修ガイド 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>各科目において、授業時間外の学習時間が適切に確保できるよう課題を調整している。また、教員のオフィスアワーを GBC(Glass Box Office Hour Center)に集約し、学生アシスタント(SA)と共に、学習支援を行っている。なお、2020年度からは COVID-19の影響により、オンラインにて GBC を開室している。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GBC ホームページ https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/ ・情報科学部時間割表 	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>授業改善アンケートの結果を振り返り、各科目の授業外学習の時間の到達度を把握し、授業外学習の短い科目については、次年度以降に課題量を調整するなどの措置を行っている。また、GBCにて授業外学習の支援を行っている。なお、2020年度については、COVID-19の影響で、在宅の学習時間が増加することが見込まれることから、過度にならないよう、科目担当者で調整している。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GBC ホームページ https://cis.hosei.ac.jp/faculty/gbc/ 	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・情報科学プロジェクトにより1年次秋学期からPBL型の講義を実施している。早い段階から専門分野への興味を引き出すことで、基礎・専門科目の学習／理解の動機となることを目している。 ・リクエストを参考に開講内容を設定する「リクエスト集中講義」科目があり、夏季休業、春期休業を中心に先端技術の知識を得る場として開講している。 ・COVID-19の影響により、2020年度の春semesterはオンライン授業を実施しているが、87%の授業をリアルタイムオンライン授業として実施し、教育内容の維持を図っている。 	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学部ホームページ https://cis.hosei.ac.jp/ ・2020年度春学期オンライン講義ポータル 	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※どのような配慮が行われているかを記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義に関しては、学科・コース毎の必修・選択の違いや基礎科目であるか否かといった観点から受講者数を想定し、適正なクラス規模となるように必要に応じて複数のクラスを開講している。 ・英語については少人数の能力別クラスを展開している。 ・演習科目については、想定される見込み履修者から少人数クラスとなるようなクラス数を開講している。 	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学部時間割表 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度について教授会で意見交換している。また、重要科目については、学び直し制度や再履修クラスの設定を行い、適切なレベルでの単位認定が行われるようにしている。また、成績評価について執行部が学科やコースなどの属性毎の成績分布の違いを分析し、各教員の成績評価や講義のレベル設定の適切性の指標として教授会で情報提供を行っている。 	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・集計データは教授会での提示のみ（秘密情報のため学部内限り） 	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組み概要を記入。 厳格な評価をスムーズに行うために、科目ごとの教員裁量による成績評価を集約したコース毎の成績を集計している。基礎科目群においては単位認定と成績評価を分離し、後続科目への必要性に応じた適切な評価を実現している。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・集計データは教授会での提示のみ（秘密情報のため学部内限り） 	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 教授会にて、随時、学生の就職状況・進学状況を報告している。また、2名の就職担当教員が1年ずつづらしながら二年間就職担当を受け持つことで、長期化する就職活動に対して適切に状況把握や指導を行うことができるようにしている。また、就職状況について、オンラインのスプレッドシートで情報共有を開始し、随時、指導が必要な学生を把握できるシステムとした。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第 387 回教授会議事録「就活状況」	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・GPA の分布、単位取得状況、授業への出席状況など、学生の詳細なデータで把握して分析し、教授会で情報共有している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・単位取得状況資料、授業出席率資料など ・第 395 回教授会議事録「2019 年度進級・卒業者の確定数」	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。 ・入学時にプレースメントテストを実施し、基礎能力を確認している(2020 年度は COVID-19 の影響で未実施)。 ・専門科目の基礎科目では、基礎力確認テスト(Mastery Test)を実施し、専門基礎力を測定している。 ・卒業論文、特講発表会は、複数教員による評価を行い、最終的な学習成果を測定している。	
【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 アセスメントポリシーを制定し、学習成果の測定指標と学位授与方針との関連を公開した。総合的な学習成果の測定指標として、情報処理技術習熟度確認試験を新たに設置し、実施した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・情報科学部 アセスメントポリシー ・第 393 回教授会議事録「情報処理技術習熟度確認試験（iptpt）評価基準」	
③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。 2019 年度に、アセスメントポリシーについて教授会で議論し、最終案を教授会で承認した。この方針に基づき、卒業論文の評価の厳格化を進めた。	
【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 アセスメントポリシーについて教授会で議論し、最終案を教授会で承認した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第 381 回教授会議事録「アセスメントポリシー」	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。 2016 年度に、2015 年度までのポートフォリオシステムを改修し、このシステムの中で利用の多い部分に特化したシステムに移行して、GPA、TOEIC などの情報を提供している。	
【2019 年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・年度末の進級判定にあたって、全体的な成績分布や単位取得状況の分析を行っている。 ・単位取得数が少ない学生とは、保護者を含めた面談を行い、状況の確認を行っている。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・分析結果と面談の状況は教授会に報告し情報共有している。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 成績不振者向け保護者面談会の案内、および、面談記録(内部資料)	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・授業改善アンケートの結果を、データで入手し、学部教授会内で共有し、分析を行っている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では、2015年度のカリキュラム改革により、基礎教育科目に重点を置くとともに、演習科目を充実、レポート作成時の教員の指導体制の充実など、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が継続的かつ適切に提供されており評価できる。また、幅広い教養科目の充実、特に外国人留学生のための日本語科目の開講により、今後は留学生の優秀な留学生を受け入れる間口の拡大へつながることが期待される。また、インターシップ科目を開講し、インターシップを推奨するとともに、情報処理技術者試験の受講を推奨するなど、社会的、職業的自立を図るためのキャリア教育も適切に提供されていると評価できる。

一方、2020年度はCOVID-19の影響で入学時の数学のプレースメントテストが未実施となり、習熟度による科目選択ができないままオンライン授業がスタートしたが、その影響がどのような形で現れるか、注視し、適切な指導を継続して行うことが望まれる。

また、全般的な学生への学習指導、適切な成績評価のための方策、学生の学修成果の可視化、および進路状況の把握、教育課程の点検・評価・改善体制はおおむね適切に機能していると考えられ、高く評価できる。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。 ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションが2年間で一巡する形式で実施している。 ・全ての講義に対して、自由に授業参観を行うことができる。特に、複数教員が担当する同一講義の他クラスや講義の積み上げ方向の関連科目を中心に、講義方法や内容の共有を図っている。	
【2019年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】 ※箇条書きで記入。 ・オープンセミナー(春学期の隔週金曜3限、教員の研究活動の発表) ・3科目で20回以上の授業参観を行った。同一科目を複数名で実施している教員間の情報共有、前提科目との情報共有を行った。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報科学オープンセミナー https://cis.hosei.ac.jp/gs/courses/special/ ・第393回教授会議事録「授業相互参観報告」 	
<p>②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金獲得の取り組みを進め、2020年度の科研費に4件の新規採択があった。 ・教授会合意のもとで科研費インセンティブ予算を学部管理とし、学部生・院生が積極的に外部発表を行うように支援している。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2019年度に応募した科研費について、4件が内定を受け、2020年度から研究を開始する。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

<p>情報科学部のFD活動については、大学院講義科目であるオープンセミナーを通して、定期的に全教員が研究内容についてプレゼンテーションを2年間で一巡する形式で実施しているほか、授業参観を定期的に行うなど教員間の情報共有が行われており、教育の資質の向上を図るための方策が適切になされていると評価することができる。</p> <p>また、科研費等、外部資金獲得の努力も継続的になされているとともに、科研費インセンティブを学部生、院生の学会発表に活用するなど、柔軟に運用することにより学生の研究意欲を高めるための方策をされており、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策が講じられていることは評価できる。</p>

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	在学期間にわたる学修が適切に進行するように、学修状況の把握をすすめ、より適切な教育内容の提供及び学修指導体制の構築を目指す。	
	年度目標	学生の出席状況の傾向の変化に対応するように、出席と単位取得等の現況を分析し、学修指導に適切な学修状況の見直しを行う。	
	達成指標	出席状況は成績不振学生への面談対応において、対応すべきレベルの見直しを行い、その基準に従って学生や保護者への対応を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	重点対応、個別相談会の案内、警告状の送付と状況によりレベルを分離し、それぞれの状況に応じた適切な指導を行う体制とした。
		改善策	引き続き適切な学修指導を行う。
質保証委員会による点検・評価			
所見	達成状況はAと評価した。 成績不振学生、その保護者への面談対応等、適切に行っている。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		改善のための提言	面談等に対応した学生の継続的なケアが課題であり、検討が必要である。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
2	中期目標	座学・実習・演習が中心とな情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。		
	年度目標	前年度の演習科目におけるアクティブラーニングの試行を元に、具体的な演習実施形態の検討を進める。		
	達成指標	中規模の演習科目におけるアクティブラーニングの適切な実施方法を検討し実施する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	前年に引き続き個別科目における試行を行うに留まり、具体的な実施形態が定まるまでには至らなかった。	
		改善策	具体的な演習実施形態の検討を進める。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		達成状況はBと評価した。 特定科目（プログラミング演習）での試行によって、アクティブラーニングにおける知見が集まりつつあるが、他科目での活用までには踏み切れていない。		
改善のための提言	同種の科目での活用など、展開の方法の検討が必要である。			
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】		
3	中期目標	多様な入試経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。		
	年度目標	科目群やコース科目などのカリキュラム上の区分に基づいた学修状況の分析を行う。		
	達成指標	コース毎に特徴的な科目群に絞った成績分布の特徴など、コース化されたカリキュラムに対して効果の期待できそうな分析を複数の基準で実施し、教授会に結果を提供する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	年度末期の繁忙により、コース毎等の詳細な分析には至らなかったため。	
		改善策	これまで、年度末に当年度の分析をおこなっていたものを、次年度に入ってから、執行部・カリキュラム委員会で前年度までの成績分析を分析する形態に変える。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		達成状況はBと評価した。 学年、学科ごとの成績は把握できているが、コース毎の学修達成度の評価に至っていない。		
改善のための提言	コース必修科目等の成績評価により、専門性に着目した学修達成度を測る。			
No	評価基準	学生の受け入れ		
4	中期目標	社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。		
	年度目標	入試経路毎の成績分析の追跡調査を行い、入試の実施レベルでの改革を行う。		
	達成指標	学修上の困難が見られる推薦入試について改革を行う。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	指定校推薦入試における就学状況の調査とそれに対する対応を行った。	
		改善策	前年度に引き続き、指定校推薦入試の見直しを進める。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		達成状況はAと評価した。 指定校推薦入学の学生の成績追跡調査を行った。		
改善のための提言	推薦入試の改革を行いつつ、入試経路ごとの定員バランスの適正化に努めたい。			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	の提言	
5	中期目標	学部の理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FDや教員間の協働を進める。	
	年度目標	教育の最終段の強化に繋がる外部資金の獲得を目指し、継続的に複数教員の連携による申請を行う。	
	達成指標	複数教員の連携による大型予算への申請を1件以上行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	複数教員連携で大型外部資金への申請が行われた。 1件（JST CREST）
		改善策	前年度に引き続き、大型外部予算への申請を積極艇に行う。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	達成状況はAと評価した。 教員の連携によって、大型外部資金への申請が行われた。
	改善のための提言	引き続き、積極的に外部資金への申請を行う。	
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。	
	年度目標	入学してくる学生の様相の変化に適合するように、教員・職員・GBC相談員の連携による、学修困難学生への情報把握・共有体制を見直す。	
	達成指標	年度の早い時期で支援体制を見直しを実施する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	学部執行部・事務・GBC・教授会で連携体制・支援態勢の指針について合意をした。 GBC相談員の雇用を無期化可能にする方向についての調整が大きく進展した。
		改善策	引き続き、学部・事務・GBCでの連携体制の安定化を図る。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	達成状況はSと評価した。 GBC相談員、教員、職員の連携によって多くの学生に対応できた。
	改善のための提言	引き続き、効率的かつ柔軟な対応が可能なよう体制を整えたい。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。	
	年度目標	本学部の教員の専門分野における、個別の情報技術についての解説や説明を作成しWeb等を通じて公開する。	
	達成指標	取りかかりとして、情報技術紹介コンテンツ作成の体制を確立し、技術紹介コンテンツを公開する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	学生による取材の形態でコンテンツ作成を行った。
		改善策	作成したコンテンツの公開方法の検討と、さらなるコンテンツの拡充を図る。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	達成状況はBと評価した。 学生の取材によるコンテンツ作成というユニークな方法を取り一定の進展を見たが、公開には至っていない。
	改善のための提言	コンテンツを公開可能なものとし、社会に発信することが期待される。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	の提言
【重点目標】	
カリキュラムの見直しを視野に入れて、学修成果の把握を重視する。特に、コース毎の特性にあった評価のための科目グループの把握やその区分に基づいた分析を行い、その結果を教授会に展開する。	
【年度目標達成状況総括】	
カリキュラムの見直しに向けて、教授会での意見交換などを通じた学修状況の概要の共有は進んできている。一方で、方向性を定めるための具体的な数値データの分析、特にコース毎の学習達成度の評価には至らなかったため、引き続き分析を進めカリキュラム改革に備えていく。	

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>情報科学部の2019年度目標の達成状況は、教育内容については、成績不振学生への面談を行い、個別に学修指導を行うレベルの検討。学生の受け入れについては、入学経路ごとに就学状況調査を行い、指定校推薦の見直し。教育方法については、中規模演習科目に対するアクティブラーニングの実施方法の検討。学習成果については、コースごとの学修達成度の分析。外部資金の獲得については、学部内の複数教員の連携による大型外部資金への申請。学生支援については、学修困難学生への支援体制の構築。社会貢献については、教員の情報技術紹介コンテンツの作成による社会発信への準備を進めるなど、具体的かつ詳細な目標や達成指標を設定したうえで、年度末にはその多くの目標について達成したことは、積極的に改革・改善へ向けた努力を行っているものとして高く評価できる。これらの項目のうち、演習科目へのアクティブラーニングの導入については、その教育の有効性を検討しつつ、コース毎の学修達成度の分析および評価については、改善すべき点を検討し、有効なものとなる様、さらに継続的に検討を進めることが望ましい。</p> <p>また、達成状況の自己評価は学部内の質保証委員会が担っているようで、厳しめの評定をしていることも好ましい。今後の貴学部のさらなる展開を期待したい。</p>

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	在学期間にわたる学修が適切に進行するように、学修状況の把握をすすめ、より適切な教育内容の提供及び学修指導体制の構築を目指す。
	年度目標	在学期間全体にわたる学修状況の分析を行い、教育課程・内容の見直しを検討する。卒業論文、特講のセメスター化を検討し、自由度の高い教育課程を目指す。
	達成指標	卒業論文、特講のセメスター化の実現
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	座学・実習・演習が中心とな情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。
	年度目標	同時双方向型の遠隔授業の在り方を、その実施を通して検討し、将来にわたる同時双方向型の遠隔授業の活用方法を確立する。
	達成指標	オンライン授業における同時双方向型の遠隔授業の実施率
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	多様な入試経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。
	年度目標	科目内の基礎力確認テスト、学部内で総合的に学習成果を評価するための情報処理技術習熟度確認試験、さらに、学外で実施される技術者試験、学会発表を組み合わせた学修達成度を検討する。
	達成指標	基礎力確認テスト、GPA、情報処理技術習熟度確認試験、技術者試験、学会発表に基づく総合的な学修達成度指標を確立する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学生の受け入れ】
4	中期目標	社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。
	年度目標	指定校推薦、公募推薦において定員バランスを考慮した学生の受け入れを行う。また、2021年度入試から学科により異なる入試日を新規に採用し、受験しやすい制度を確立する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	学修上の困難が見られる推薦入試について改革を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教員・教員組織】
5	中期目標	学部の理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FDや教員間の協働を進める。
	年度目標	教育の最終段の強化に繋がる外部資金の獲得を目指し、継続的に複数教員の連携による申請を行う。
	達成指標	学科により異なる入試の実施と、その適切な査定。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学生支援】
6	中期目標	大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。
	年度目標	オンライン環境における学生の学習支援、および、生活支援体制を確立する。
	達成指標	オンライン授業実施・支援体制の確立。
No	評価基準	教育課程・学習成果【社会連携・社会貢献】
7	中期目標	情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。
	年度目標	卒業研究の学外発表を推進し、最新技術の社会に向けた発信を行う。
	達成指標	卒業研究の学会発表数、および、受賞数。
<p>【重点目標】</p> <p>2020年度は、COVID-19の影響により、オンライン授業を実施している。この中で、特に、同時双方向型の遠隔授業を活用した教育方法の確立を重点目標に掲げる。遠隔授業の実施、学生支援に加え、学修成果の評価指標も含めて、将来にわたる大学の授業形態のひとつとして取り入れていることを意識した施策を検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>同時双方向型の遠隔授業の基本実施方針を定め、教員・学生に周知する。そして、この方針のもとに生じた課題を整理・分析し、改善案を検討する。最終的に、将来にわたる同時双方向型の遠隔授業を活用した教育システム改革を目指す。</p>		

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

情報科学部の2020年度中期目標、年度目標は、共に前年度の達成状況を踏まえて概ね適切に設定されていると考えられる。重点目標にあるようにCOVID-19蔓延のリスク下にある現況において、これまでの情報科学部におけるアクティブラーニングの試行結果を元に、その有効性をさらに検討し、効果的な同時双方向遠隔授業による教育システムの構築を実現することに期待したい。また、2021年度から導入する学科により異なる入試日を採用することがどのような効果をもたらすか、注目に値する。

一方、中期目標に学修の困難を抱えている学生についての支援体制の構築に関して、年度目標にオンライン環境における学生の学習支援および生活支援体制を確立するとの記載があるが、具体的にどのような形での生活支援を検討しているか、内容が明確でないものもある。今後、対応を進められる過程での具体化を期待したい。

【大学評価総評】

情報科学部では、情報系学会標準に基づいたカリキュラム設計および最新動向に対応した改訂を数年ごとに継続的に実施している。また、2015年度のカリキュラム改革により、基礎教育科目に重点を置くとともに、演習科目を充実、レポート作成時の教員の指導体制の充実など、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が継続的かつ適切に提供されており、高く評価できる。また、大学院講義科目であるオープンセミナーを通して、定期的に全教員が研究内容についてプレゼンテーションを行い、授業参観を定期的に行うなど教員間の情報共有が行われており、教育の資質の向上を図るための方策が適切になされている点も高く評価できる。さらには、GBCを積極的に活用し、オンライン開催による学習支援および指導を継続的に行っている点も高く評価される。情報科学部の特性を生かし、アクティブラーニングを用いた効果的な同時双方向遠隔授業による教育システムの構築を実現することに期待したい。

オフィスアワーをGBCに集約し、学生アシスタントと共に学習支援・指導、授業外学習の支援が適切に行われていることを極めて高く評価する。コース毎の成績分布を講義レベルの指標とし、学び直しや再履修クラス編成に反映しており、成績評価と単位認定の適切性、また厳格な成績評価を行う取り組みは評価できる。TOEIC®、学会表彰件数、情報処理技術者試験合格者数などの評価指標を学部独自のポートフォリオシステムで可視化し、学生に共有している。オープンセミナーを教員・学生が交流する場として活用、また授業参観、複数教員が担当する講義、積み上げ方向の関連科目は、講義方法

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

や内容を共有しており、学部内の FD 活動が適切に行なわれている。また、科研費インセンティブ予算を学部が管理し、学生の外部発表の支援強化に利用しており、研究活動の活性化や資質向上を図るため取り組みとして評価できる。

中期年度・年度目標に関しても、具体的かつ詳細な目標や達成指標を設定したうえで、年度末には質保証委員会による厳格な自己評価を実施するなど、適切な運営が行われている。2020 年度目標については、一部明確でない目標もあるが、対応を進められる過程での具体化を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。